

## 28日 火曜

### ぜパニヤ

2:4 まことに、ガザは捨てられ、アシュケロンは荒れ果てる。アシュドデは真昼に追い払われ、エクロンは根こそぎにされる。

2:5 わざわいだ、海辺に住む者たち、クレタ人の国。【主】のことはおまえたちに向けられている。「ベリシテ人の地、カナンよ。わたしはおまえを消し去って、住む者がいないようにする。」

2:6 海辺よ。おまえは牧場となり、牧者たちの牧草地となり、羊の囲い場となる。

2:7 海辺はユダの家の残りの者の所有となる。彼らは海辺で羊を飼ひ、日が暮れると、アシュケロンの家々に横になる。彼らの神、

【主】が彼らを顧みて、彼らを元どおりにされるからだ。

2:8 「わたしはモアブのそしりと、アンモン人の、ののしりを聞いた。彼らはわたしの民をそしり、自分の領土のことで高ぶった。

2:9 わたしは生きています。——イスラエルの神、万軍の【主】のことは——それゆえ、モアブは必ずソドムのようになり、アンモン人はゴモラのようになり、いらくさの茂る所、塩の穴、とこしえに荒れ果てた地となる。わたしの民の残りの者が、そこをかすめ奪う。わたしの国民の生き残りが、そこを受け継ぐ。」

2:10 これは彼らの高慢のためだ。彼らが万軍の【主】の民をそしり、これに向かって高ぶったからだ。

2:11 【主】への恐れが彼らに下る。主が地のすべての神々を消し去られるからだ。人々はそれぞれ、自分のところで主を礼拝する。異国のすべての島々も。



2:12 「あなたがた、クシュ人も、わたしの剣で刺し殺される。」

2:13 主は手を北に向けて伸ばし、アッシリアを滅ぼし、ニネベを荒れ果てた地とし、荒野のようにし、砂漠とされる。

2:14 その中に、獣の群れが、あらゆる地の獣が伏す。ふくろうと針ねずみは、その柱頭をねぐらとし、その鳴き声は窓に響き渡り、荒廃は敷居に及ぶ。まことに、その杉材か?がされる。

2:15 これが、安心して過ごし、「私だけは特別だ」と心の中で言っていた、あのおごった都だ。ああ、その都は荒れ果て、動物の伏す所となる。そこを通り過ぎる者はみな、嘲って手を振る。

「ベリシテ人の国カナン」は全くの異教の敵であって、終始イスラエルを苦しめました。

「モアブのそしりと、アモン人のののしり…」とありますが、これらの民族はアブラハムの甥であるロトの子孫です。イスラエルに近いものでありながら、イスラエルの「領土に向かって」高ぶり、問題を起こしたのです。

「アッシリヤ」は強大な王国で、「私だけは特別だ。」という大国意識で、侵略と拡大を続けました。

しかし、これらの国々は全て、主の前に滅ぼされたのです。神様の守りがなくしては生きられないのは、不信者であっても同じです。私たちが違うのは、必ず主に立ち返ることができるように、新しく生まれて神の子となっているという点だけです。しかしこれが決定的なことで、イスラエルはたびたび主に立ち返り、今もその国は続いています。

主はこのような事実から、人類にご自身に立ち返るようにと求めておられます。またイスラエルが、国家としての存続だけではなく、主イエスの

永遠のいのちとしての救いを受けるように願っておられます。

世界の歴史に現れた神様のみわざを覚えて、主の主権を認め、恐れつつも信頼し、安心しましょう。主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

